

蓮の伝来

おそらく最も有名な仏教のシンボルである蓮は、唐招提寺でも有名な花の一つです。6月下旬から8月中旬にかけて、寺院の敷地は仏教の清らかさの象徴であるさまざまな種類の蓮で活気づきます。弁天様の池や敷地内の他の場所で見られる蓮は、鑑真自身が日本に持ち込んだ種子に由来すると言われています。

境内で見られる別の花は、中国のスイカズラ科の木で、その香りの良い白い花の塊は、晩春に咲きます。この花は中国でも文化的に非常に重要であり、鑑真の出生地である揚州の象徴として知られています。

有名な詩人である北原白秋（1885–1942）は以下の詩をよみました。

水檜の柔き嫩葉はみ眼にして花よりもなほや白う匂はむ

白秋はおそらく、詩人としての鑑真にも、病気でほとんど盲目であったため親近感を感じていたでしょう。「ミズナラ」は、俳句で使われる「カケコトバ」と呼ばれる詩的な機能があり、2つの意味が同音語で意図的に伝えられます。この場合、「ミズナラ」（日本原産のブナの木）は「見ず奈良」という意味でもあります。